

能登半島地震への対応

各社協力して応急復旧に奔走



1月1日夕、石川県内で観測史上初となる最大震度7を記録した「令和6年能登半島地震」が発生した。2011年3月11日の東日本大震災以来の大津波警報が発令され、珠洲市や能登町など広い範囲が津波の影響で浸水した。半島海岸では最大4mの隆起が発生するなど地震の威力を感じさせた。日本埋立浚渫協会北陸支部らは、発災直後から国の要請を受けて被災地への支援物資輸送などに奔走。会員各社が協力して進めた港湾施設の応急復旧がおおむね完了した現地では、本格的な復旧を行うフェーズに入った。



被災した22港

2024年1月1日 16:10

地震発生

石川県能登半島地方を震源とするマグニチュード7.6 (M7.6)の地震が発生した。震源の深さは16km。最大震度は石川県輪島市と志賀町で記録した震度7。日本国外を含め日本海沿岸の広範囲で津波が観測された。国土交通省北陸地方整備局はただちに、災害対策本部を設置。日本埋立浚渫協会などに緊急復旧を要請。日本埋立浚渫協会北陸支部および中部支部は、石川県珠洲市などへの支援物資輸送に着手。搬入完了。

1月2日

国土交通省が港湾法に基づいて、港湾管理者(石川県)から要請のあった県内港湾(七尾、輪島、飯田、小木、宇出津、穴水各港)の港湾施設の一部について代行管理を開始。内容は「施設の点検・利用可否判断」「応急復旧」「岸壁の利用調整」など。

1月5日までに

国土交通省、水深4.5m以深の9岸壁が利用可能であることを確認。

2月1日

石川県、富山県、石川県七尾市からの要請に基づいて、七尾、穴水、宇出津、小木、飯田、輪島、伏木富山、和倉の8港湾などについて、北陸地方整備局が自治体に代わって本格復旧することが決定。

2月16日

北陸地方整備局が、輪島港における航路啓開を日本埋立浚渫協会北陸支部に要請。石川県七尾市に能登復興事務所および能登港湾空港復興推進室が開設される。

2月19日

国、石川県、七尾市などによる「能登半島地震被災港湾施設復旧技術検討会」(座長・横田弘北海道大学名誉教授)が設置される。

2月27日

北陸地方整備局が、飯田港における航路啓開を日本埋立浚渫協会北陸支部に要請。

3月25日

能登半島地震被災港湾施設復旧技術検討会による「能登半島等における港湾の復旧設計方針」が策定され、概ね2年以内の復旧完了方針が示される。



新潟市から被災地に向け緊急支援物資を積み込んだ車両が出発



新湊(伏木富山港)にて埋渫中部支部からの支援物資を積み込む



緊急支援物資を支援先の輪島市門前健民体育館に荷下ろす

緊急支援物資対応



直江津港から被災地に向け海上輸送する緊急支援物資を積み込む



七尾港において「海翔丸」で海上輸送された支援物資を荷下ろす

港湾の災害復旧工事 「概ね2年以内に完了」

日本埋立浚渫協会は地震発生後直ちに本部（東京）と北陸支部（新潟）に災害対策本部を設置した。震度7を記録した能登半島にある各港湾の被災状況を確認するほか、国土交通省北陸地方整備局の要請を受け、ブルーシート、飲料水、簡易トイレ、食料品、カイロなどの緊急支援物資を海上と陸上の両方から運搬した。輪島港（石川県輪島市）で支援物資を荷受けできるよう5日夕までに応急復旧を行うなど、正月休み返上で対応に当たった。

被害状況が徐々に明らかとなる中で、国交省、北陸整備局、埋浚協の本部、各支部が参加するウェブ会議を繰り返し、港湾を中心とする今後の対応を協議。被災各港の応急復旧や航路啓開作業などを実施した。

応急復旧がほぼ完了した今後は、災害復旧工事を本格的に実施する段階に移行する。特に機能が著しく低下した港湾については、権限代行制度を活用して自治体に代わって国交省が災害復旧工事を進める。北陸整備局では3月に「概ね2年以内に完了させる」との方針を示した。

輪島港（輪島市）

岸壁背後に最大2mの沈下が発生。応急復旧により車両のアクセスを確保（1月5日）。



応急復旧実施箇所

応急復旧後の状況（水深7.5m岸壁）



自衛隊車両の利用（1月5日）

七尾港（七尾市）

液状化により車両の通行が困難であったところ、応急復旧により車両の走行路を確保（1月12日）。



応急復旧実施箇所

応急復旧の状況（水深11m岸壁）



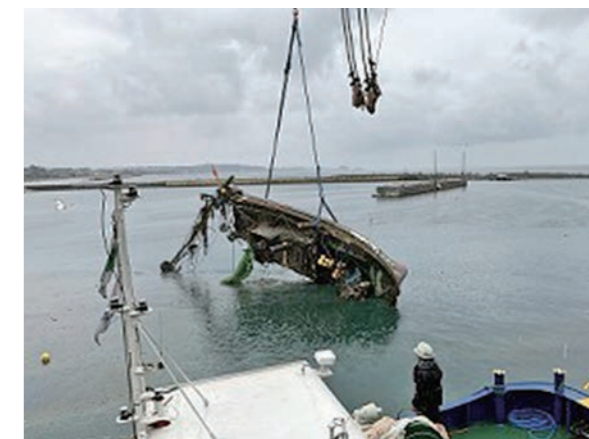
「はくおう」による休養施設の提供（水深11m岸壁）

（出典：国土交通省HP）

応急復旧工事対応



輪島港での航路啓開作業。水深を確保するための浚渫



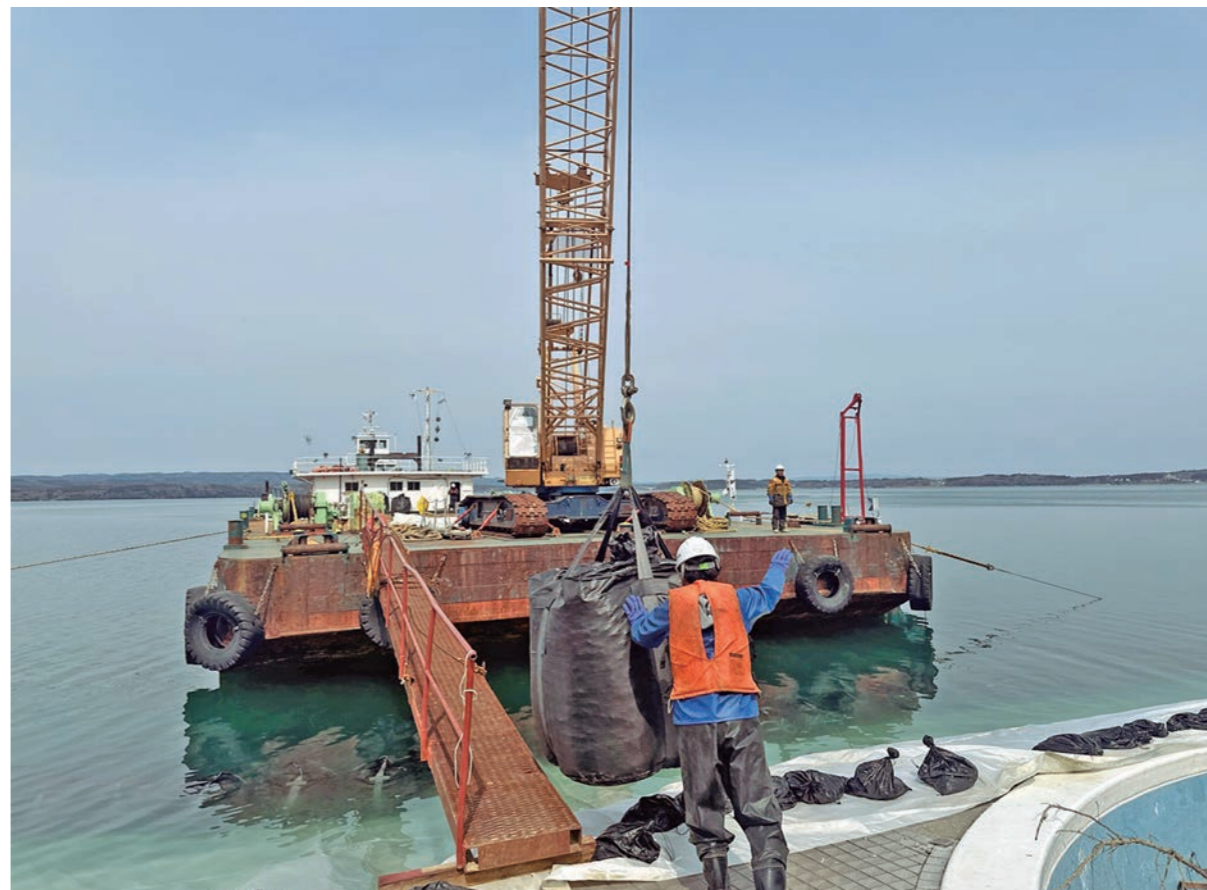
飯田港での航路啓開作業。被災した船舶の引き上げ



新世丸で海上輸送した敷鉄板（通路用）を輪島港で荷下ろす



和倉港、和倉港海岸で護岸倒壊や浸食防止に対応



和倉港、和倉港海岸で土シート、大型土のうを設置している様子

飯田港（珠洲市）

岸壁背後にうねりが発生。応急復旧により、車両のアクセスを確保（1月9日）。



応急復旧後の状況（水深4.5m岸壁）



応急復旧実施箇所

民間2船（RORO船等）の利用（1月11日）